

和田建設株式会社 環境活動レポート

THE REPORT OF ENVIRONMENTAL ACTION

2014年

(2014.4.1～2015.3.31)



目次

環境方針	1
事業の概要	2
事業の規模	3
環境目標	4
環境活動計画	5
取組状況	6
環境活動の取組結果と評価	7
環境への負荷の推移	8
代表者による評価と見直し	10
環境関連法規	11
緊急事態の想定結果及び対応策	12
その他の取組	13

WADAKENSETSU Co.,Ltd.

(発行日:平成27年6月30日)

ENVIRONMENTAL POLICY

環境方針

基本理念

私たちは、地球環境保護はもっとも重要な社会貢献の一つであると考え、環境の保全を社員全員の共有する価値観とし、毎日の事業活動を通じて、社会資本整備と環境保護が共に成り立つ循環型社会の実現に取り組みます。

行動指針

- 1 法規制の遵守はもとより、環境問題の未然防止に努めます。
- 2 環境や自然を大切にする企業風土を醸成します。
- 3 資源とエネルギーの有限性に鑑み、使用する資源の最小化に努めます。
- 4 環境負荷低減を可能にする工法や商品開発を積極的に推進します。
- 5 地域、社会や自然との共生に積極的に努めます。
- 6 事務用品や建設資材等のグリーン購入に努めます。



エコアクション21

平成24年4月10日
和田建設株式会社
代表取締役 鈴木美奈子

事業の概要

名 称

和田建設株式会社
(和田建設株式会社一級建築士事務所)

代表者の氏名

代表取締役 鈴木 美奈子

所在地

〒417-0061 静岡県富士市伝法3110番地の1

電話 0545-52-1711

FAX 0545-52-6939

E-mail info@wadaken.co.jp

設 立

昭和 48 年 4 月 1 日

資 本 金

1,000万円

事業分野

河川、道路、橋梁、下水道工事など社会基盤の整備
プラントメンテナンス、マテリアルハンドリング等の工場環境、生産環境の整備
機械基礎、機械設置工事

◆ 建設業許可(24-001876)

許可業種 土木一式工事／建築一式工事／塗装工事／舗装工事
機械器具設置工事／管工事／とび・土工工事

◆ 産業廃棄物収集運搬業許可(02201179376)

収集運搬(積替え及び保管行為を除く)

産業廃棄物の種類 廃プラスチック類、ゴムくず、金属くず、ガラスくず・コン
クリートくず及び陶磁器くず、がれき類、紙くず、木く
ず、繊維くず

従 業 員 数

9 名

環境管理責任者

鈴木 美奈子

エコアクション担当者

秋山 有理

電話 0545-52-1711

E-mail y_akiyama@wadaken.co.jp

事業の規模

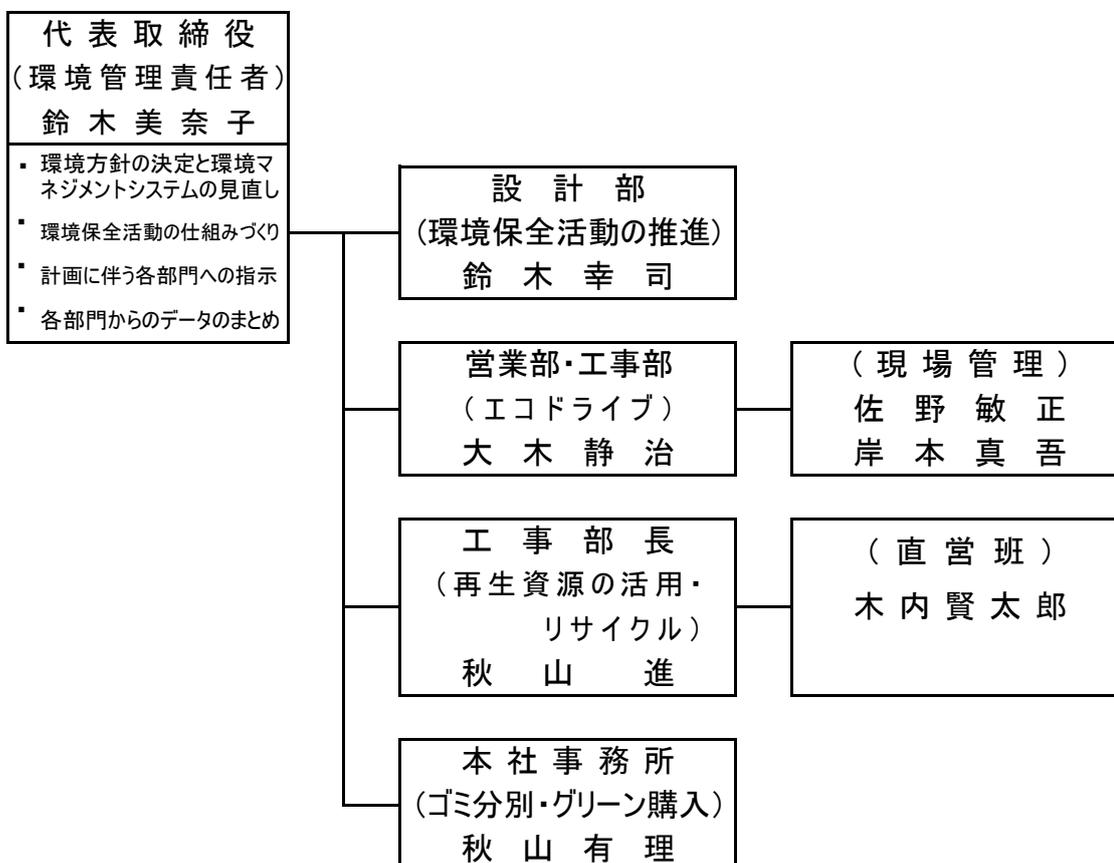
活動規模	単位	40 期	41 期	42 期
		2011.10～'12.09	2012.10～'13.09	2013.10～'14.09
工事の件数	件	214	210	291
売上高	百万円	175	183	183
従業員	人	9	9	9
事務所床面積	m2	336	336	336
倉庫床面積	m2	40	40	40
資機材床面積	m2	528	528	528

認証・登録の対象範囲

全組織・全活動

和田建設株式会社 組織図および実施体制

()内はエコアクション21担当



環境目標 ENVIRONMENTAL TARGET

環境目標

	単位	基準値	前年度実績	今年度	中長期目標				
		2011年	2013年	目標数値	2015年	2016年	2017年		
削減率				2%	2.5%	3%	3.5%		
温室効果ガス排出量	kg-co2	28533	34426	27963	27820	27677	27535		
事業所	購入電力	kWh	13612	6377	13339.76	13271.70	13203.64	13135.58	
	太陽光発電量 (年間想定発電量を目標値とする)	kWh	5474	5850	5474	5474	5474	5474	
	太陽光発電売電量	kWh	1762	1701	1797.24	1743.53	1851.16	1804.55	
	灯油使用量	L	20	20	20	20	20	20	
	LPG使用量	kg	141	130	138.18	137.48	136.77	136.07	
	水使用量	m3	249	256	244.02	242.78	241.53	240.29	
	グリーン購入	%	61	64	62.72	63.02	63.33	63.64	
	廃棄物	再資源化量率	%	89.72	74.80	91.51	91.96	92.41	92.86
		最終処分量	kg	7	7	6.86	6.83	6.79	6.76
	乗用	ガソリン使用量	L	1782	1417	1746.36	1737.45	1728.54	1719.63
平均燃費		L/km	15.29	15.29	15.59	15.67	15.74	15.82	
現場	ガソリン使用量	L	4352	4886	4264.96	4243.20	4221.44	4199.68	
	平均燃費	L/km	9.99	9.99	10.19	10.24	10.29	10.34	
	軽油使用量	L	3091.17	5974	3029.35	3013.89	2998.43	2982.98	
	平均燃費	L/km	6.14	6.14	6.26	6.29	6.32	6.35	
現場	ガソリン使用量	L	500		490.00	487.50	485.00	482.50	
	軽油使用量	L	500		490.00	487.50	485.00	482.50	
	灯油使用量	L	40	54	40.0	40.0	40.0	40.0	
	廃産物	再資源化量	%	99.36	99.13	99.56	99.61	99.66	99.71
		削減率				0.20	0.25	0.30	0.35
		最終処分量	t	1.53	1.53	1.50	1.49	1.48	1.48
コスト削減提案	件	20	23	21	22	23	24		
環境配慮工事提案	件	3	3	3	3	3	3		

※電力は東京電力の調整排出係数0.525kg-co2による

※現場においては2011年の参考数値

ENVIRONMENTAL ACTION PLAN

環境活動計画

項 目	担当者
① 二酸化炭素排出(燃料・電気)の低減	
全車両のエコドライブの周知	大 木 静 治
低排気車両の購入の検討	鈴 木 美 奈 子
遮光・断熱化対策	
エアコンの設定温度を夏28℃冬20℃に設定	秋 山 有 理
クールビズ・ウォームビズの推奨	
消灯の徹底	
省エネ重機の使用	大 木 静 治
② 水使用量の低減	
事務所での節水	鈴 木 美 奈 子
水漏れ点検の実施	
③ 廃棄物排出量の低減	
コピー用紙の両面使用	秋 山 有 理
業務連絡に電子メールの利用など、ペーパーレスに努める	
仮設資材を整理整頓して、購入を控える	大 木 静 治
建設副産物の分別化	
④ リサイクル推進	
ダンボール、雑誌等紙類のリサイクル	秋 山 有 理
ペットボトル、瓶、缶等飲料容器のリサイクル	
⑤ グリーン購入の推奨	
従来と値段が一緒ならばグリーン購入に乗り換える	秋 山 有 理
リユース製品の購入	
⑥ リサイクル商品の開発と販路拡大	
リサイクル可能な資材の使用を推進	秋 山 進
瓦再生砕石の使用を提案・推進	
⑦ 環境配慮工事提案	
環境に配慮した施工を提案	大 木 静 治
コスト削減につながる施工を提案	
⑧ 地域の環境活動への参加	
地域の環境活動へ積極的に参加する	鈴 木 幸 司

取組状況 ACTION STATUS

項目	評価	評価内容	今後の取組
① 二酸化炭素排出(燃料・電気)の低減			
全車両のエコドライブの周知	○	各ドライバーの前年度平均燃費を確認	継続実施
低排気車両の購入の検討	○	低排気車両購入	継続実施
空調設定温度 夏28℃冬20℃	○	徹底されている	継続実施
クールビズ・ウォームビズの推奨	○	全社員に説明	継続実施
消灯の徹底	○	消灯を促すシールを貼る 担当者から全社員に説明	継続実施
省エネ重機の使用	○	省エネ重機をリースするよう、全社員に説明	継続実施
② 水使用量の低減			
事務所での節水	○	徹底されている	継続実施
水漏れ点検の実施	○	徹底されている	継続実施
③ 廃棄物排出量の低減			
コピー用紙の両面使用	○	徹底されている	継続実施
業務連絡のペーパーレス化	○	業務連絡は電子メールまたは口頭で	継続実施
仮設資材を整理整頓して、購入を控える	○	担当者から全社員に説明	継続実施
建設副産物の分別化	○	担当者から全社員に説明	継続実施
④ リサイクル推進			
ダンボール、雑誌等紙類のリサイクル	△	徹底されているが、排出量を把握しきれなかった	継続実施
ペットボトル、瓶、缶等飲料容器のリサイクル	△	徹底されているが、排出量を把握しきれなかった	継続実施
⑤ グリーン購入の推奨			
グリーン購入・エコマーク商品の購入	△	現場でのグリーン購入品の把握がされていない	継続実施
詰め替えできる商品の購入	○	徹底されている	継続実施
⑥ リサイクル商品の開発と販路拡大			
リサイクル可能な資材の使用を推進	○	徹底されている	継続実施
瓦再生砕石の販売	○	所属する協同組合により「ウインセラミコ」の販売を促進	継続実施
⑦ 環境配慮工事提案			
環境に配慮した施工を提案	○	環境アドバイザーの資格取得	継続実施
コスト削減につながる施工を提案	○	工期短縮などにより、省エネ・廃棄物の減量などにつなげた	継続実施
⑧ 地域の環境活動への参加			
地域の環境活動へ積極的に参加する	○	紙類は就業継続支援B型事業所へ、空き缶は鮎の稚魚を放流するためのボランティアに寄付。 富士市環境エネルギー推進協議会員に就任	継続実施

OUTCOME EVALUATION MEASURES

取組結果と評価

環境活動の取組結果

(目標達成○、前年度より減少△、どちらも未達成×)

		単位	実績	目標数値	実績%	前年度実績	達成	
事業所	購入電力	kWh	5,078.0	13,340	-61.9%	6,377	○	
	太陽光発電量	kWh	5,868.0	5,474	7.2%	5,850	△	
	太陽光発電売電量	kWh	2,227.0	1,797	23.9%	1,701	○	
	灯油使用量	L	20.0	20	0.0%	20	○	
	LPG使用量	kg	117.0	138	-15.3%	130	○	
	水使用量	m3	197.0	244	-19.3%	256	○	
	グリーン購入	%	58.0	63	-7.5%	64	○	
	廃棄物	再資源化率	%	97.6	92	6.7%	75	○
		最終処分量	kg	126.0	7	1736.7%	80	×
	乗用	ガソリン使用量	L	1,560.0	1,746	-10.7%	1,417	○
平均燃費		L/km	14.3	16	-8.1%	15	×	
ガソリン使用量		L	4,803.2	4,265	12.6%	4,886	△	
平均燃費		L/km	9.7	10	-4.8%	10	×	
現場	軽油使用量	L	3,875.3	3,029	27.9%	5,974	△	
	平均燃費	L/km	6.2	6	-0.7%	6	△	
	ガソリン使用量	L	290.0	490	-40.8%	441	○	
	軽油使用量	L	402.0	490	-18.0%	253	○	
	灯油使用量	L	0.0	40	-100.0%	54	○	
	廃棄物	再資源化率	%	96.7	99.6	-2.9%	99.1	○
		最終処分量	t	21.5	1.50	1334.0%	2	×
		コスト削減提案	件	30.0	21.00	42.9%	23	○
	環境配慮工事提案	件	3.0	3.00	0.0%	3	△	

☆エネルギー使用量

CO2排出量換算表

(電力は東京電力の調整排出係数0.521による)

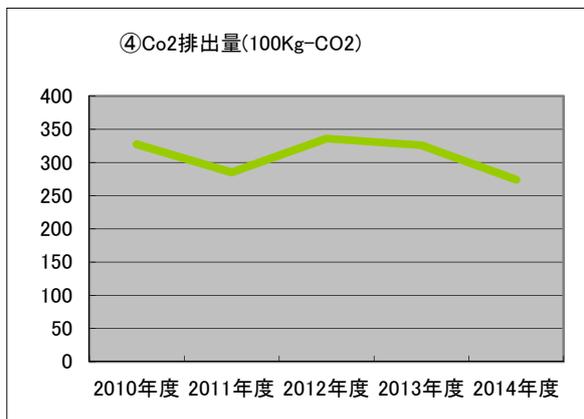
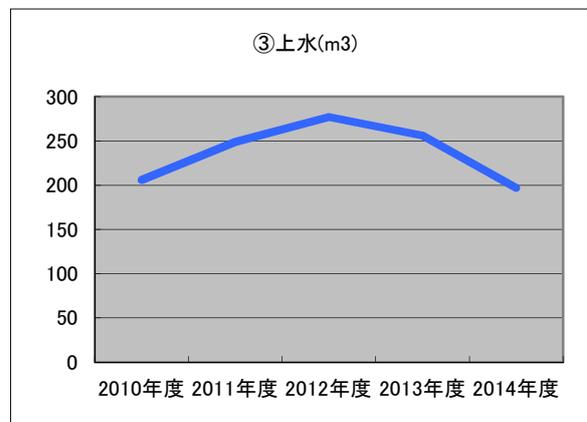
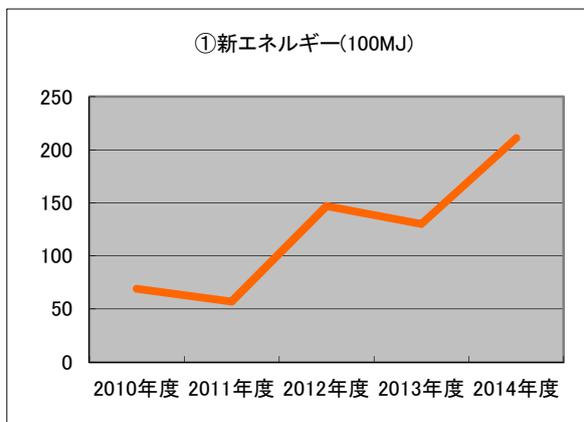
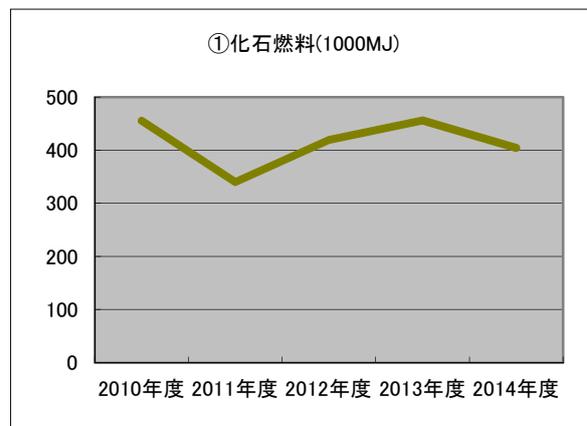
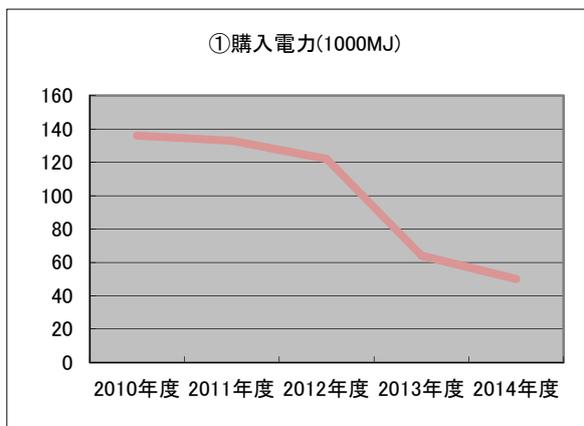
		目 標	実 績	参考(2008年度CO2排出量)	
事業所	購入電力	13,339.76	2,665.95	45,156.53	
	太陽光発電量	5,474.00	▲ 3,080.70		
	太陽光発電売電量	1,797.24	▲ 1,169.18		
	ガソリン使用量	20.00	3,621.79		
	灯油使用量	138.18	49.84		
	LPG使用量	244.02	351.23		
	計(kg-co2)	21,013.20	2,438.93	▲ 18,574 kg-co2	
現場	乗用	ガソリン使用量	4,264.96	11,151.35	(目標達成)
		軽油使用量	3,029.35	10,170.03	
	ガソリン使用量	490.00	673.28		
	軽油使用量	490.00	1,054.98		
	灯油使用量	40.00	0.00		
	計(kg-co2)	8,314.31	23,049.64	14,735 kg-co2	

環境活動の取組結果の評価

数値的な目標に関してはほぼ達成出来た。未達成の項目についても、景気の動向や気象条件などで左右されたものと思われる。

環境への負荷の推移

	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
①購入電力(1000MJ)	136	133	122	64	50
①化石燃料(1000MJ)	455	340	419	456	404
①新エネルギー(100MJ)	69	57	147	130	211
③上水(m3)	206	249	277	256	197
④Co2排出量(100Kg-CO2)	327	285	336	326	274



参考

年間エネルギー使用量

2014年4月1日 ~ 2015年3月31日

		単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
事業所	電気	KWh	328	205	273	380	374	300	370	422	785	635	569	437	5,078	
	太陽光発電	発電	KWh	602	723	593	622	488	532	401	291	292	332	427	565	5,868
		売電	KWh	324	342	270	176	120	251	169	85	50	62	130	248	2,227
	水道	m ³	33	/	34	/	33	/	31	/	33	/	33	/	197	
	ガス	L	14	4	3	2	3	2	2	7	20	19	25	16	117	
	コピー	枚	1,990	2,621	2,189	5,264	5,850	4,386	4,640	2,110	2,406	6,581	14,574	13,293	65,904	
	グリーン購入	個	5	0	2	0	2	3	4	2	4	17	16	3	58	
		率	100		50		50	60	80	10	44	77	64	100	64%	
灯油	L	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21	0	0	0	21	
乗用	レギュラー	事務	L	144	122	20	89	122	147	200	124	196	123	146	127	1,560
		現場	L	421	361	353	433	510	494	367	384	413	406	455	328	4,925
	軽油	L	351	187	278	312	306	383	207	529	283	428	325	286	3,875	
現場	電気	KWh	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ガソリン	L	38	37	38	0	15	48	40	35	15	0	15	10	290	
	軽油	L	66	40	14	35	0	63	20	62	48	17	31	7	402	
	灯油	L	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

廃棄物排出量(1年分集計) 単位:t

一般廃棄物				建設副産物				
紙類	白上質紙	0.1	ペットボトル	0.014	コンクリート	598	石こうボード	
	段ボール	0.13	プラスチックごみ	0.0139	アスファルト・コンクリート	37.85	ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁	
	その他の紙	0.018	その他可燃ごみ	0.126	木くず	0.13	廃プラスチック	0.04
かん		0.02	再資源化量	0.2959	金属くず	1.72	再資源化量	637.74
			最終処分	0.126	建設混合廃棄物	21.502	最終処分	21.502

代表者による評価と見直し

見直し 関連情報	項目		チェック	評価
	1	環境活動の記録	■	記録文書として作成しました。
	2	環境目標及び目標達成状況	■	継続して取り組みます。
	3	環境活動計画及び取組実施状況	■	継続して取り組みます。
	4	環境関連法規要求一覧及び遵守状況	■	環境活動報告書に記載の通りです。
	5	外部コミュニケーション・対応記録	■	本年は外部からの苦情はありませんでした。
	6	取引先、業界、関係行政機関その他外部動向	■	特にありませんでした。

代表者による 全体評価・見直し 指示	事業所	温室効果ガス 購入電力は目標に対して16%減、太陽光発電売電量は24%増と、本年は電気の使用量が大幅に減少した。灯油は例年並み、LPGの使用量も19%減少している。事業所においては暖房用としての使用の比重が大きいため、今冬が比較的温暖だったためと思われる。 化石燃料については、景気の動向などでばらつきがあるため、使用量と共に燃費の目標値を設定した。概ね、前年度より燃費は向上しているが、比較的近距离を走行する乗用車は燃費が落ちているため、さらなるエコドライブを心がけよう。CO2排出量に換算して、全体で1610kg/co2削減し、目標を達成した。		
		水使用量 前年度、節水型トイレを設置し、22%使用量が減少した。十分な効果があったと思われる。		
		グリーン購入 事務用品については把握できているが、現場での材料購入については把握するための手順が構築されておらず、まだ課題が残っている。 一般廃棄物 排出量は増加しているが、きちんと分別し、紙類は就業継続支援B型事業所のリサイクル業者に、空き缶は鮎の稚魚を放流するためのボランティアに寄付するなど、地域の環境活動にも積極的な参加を心がけている。		
	現場	今年度は、受注した工事が大幅に増加したため、化石燃料の使用量が相対的に増加し、Co2排出量については2597kg-co2増加した。ただ現場で使用する乗用車・貨物車については燃費は向上しているため、このままエコドライブを続けてもらいたい。 産業廃棄物においては、638tが再資源化され、最終処分量は22t、再生率は97%だった。混合廃棄物の最終処分方法や量を把握するのは難しいので、コンテナBOXに投入する前の分別を徹底したい。		
	その他	今年度、東面窓に断熱シートを貼付した。次年度の温室効果ガスがどれくらい削減できるか期待したい。		
	見直し項目		変更の 必要性	有の場合の指示事項等
	1	環境方針	無	
2	環境目標	無		
3	環境活動計画	無		
4	環境に関する組織	無		
5	その他のシステム要素	無		
6	その他(外部への対応)	無		

平成27年6月30日

和田建設株式会社

代表取締役 鈴木 美奈子

環境関連法規

1.環境関連法規の遵守状況

当事業所に適用される環境関連法規の遵守事項を確認した結果、違反はありませんでした。

	主要な法律等	適用内容または規制基準値	遵守項目	遵守状況確認		
一般	環境基本法	事業者の責務	ばい煙、汚水、廃棄物等の処理その他の公害防止、自然環境の保全に必要な処置を講ずる。製品の使用又は廃棄による環境への負荷の低減に努める	○	2015/6/30	
	地球温暖化対策の推進に関する法律	事業者の責務	温室効果ガス排出の抑制に努める	○	2015/6/30	
	グリーン購入法	事業者の責務	環境物品の購入	○	2015/6/30	
事業	建築基準法	内装仕上げ・換気設備及び天井裏等の工事	石綿含有建材の使用禁止	○	2015/6/30	
			クロルピリホス添加建材の使用禁止	○		
			ホルムアルデヒドに関する規制	○		
	廃棄物の処理及び清掃に関する法律	産業廃棄物	処分事業所との委託契約	○	2015/6/30	
			①マニフェストの交付 ②回収・照合(発行後B2,D票90日E票180日以内) ③保管(5年間)	○		
			マニフェスト交付状況報告(毎年6月30日までに)	○		
			保管場所の掲示	○		
		野外焼却の禁止		○	2015/6/30	
	建設	建設工事に係る資材の再資源化に関する法律	建築物の解体	発注者への説明	○	2015/6/30
				都道府県知事への届け出(工事着手する日の7日前まで)	○	
分別解体等				○		
再資源化等の促進				○		
再生資源の使用				○		
騒音規制法	特定建設作業・適用指定地域	規制地域での規制の遵守	○	2015/6/30		
振動規制法	特定建設作業・適用指定地域	規制地域での規制の遵守	○	2015/6/30		
建設業法	建設業許可と更新	許可と5年ごとの更新	○	2015/6/30		
上下水道法	管工事業者許可と更新	許可と5年ごとの更新	○	2015/6/30		
		施工基準	遵守と届出	○	2015/6/30	
道路法・河川法	施工基準	遵守と届出	○	2015/6/30		
消防法	保管数量の管理	第1石油類(灯油・ガソリン)200Lまで	○	2015/6/30		
		第2石油類(ガソリン)40Lまで	○			
ジャココ構内作業規定	公害防止・環境保全の義務	騒音・悪臭・振動・排水等による公害防止及び環境事故の防止	○	2015/6/30		

※毎年見直すものとする

2.違反・訴訟の有無

過去3年間、関係機関からの指摘、利害関係者からの訴訟もありませんでした。

作成者	承認者
	

緊急事態の想定結果及び対応策

1. 緊急時対策

想定結果

倉庫内の有機溶剤(ペンキ)の漏出。盗難。

定期訓練日

2014.9.1

総合防災訓練に伴い、有機溶剤の保管状況の確認。

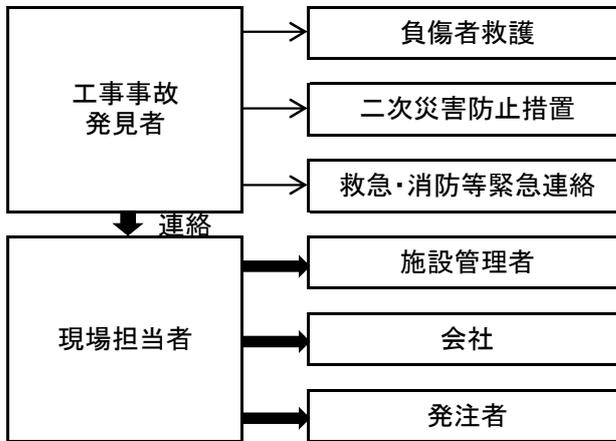
定期清掃

毎週月曜日を定期清掃日と定め、会社前の歩道と地下道の清掃を行っている。

その際、有機溶剤(ペンキ)の漏出がないか確認し、あわせて施錠の確認をするようにした。

2. 緊急時の体制

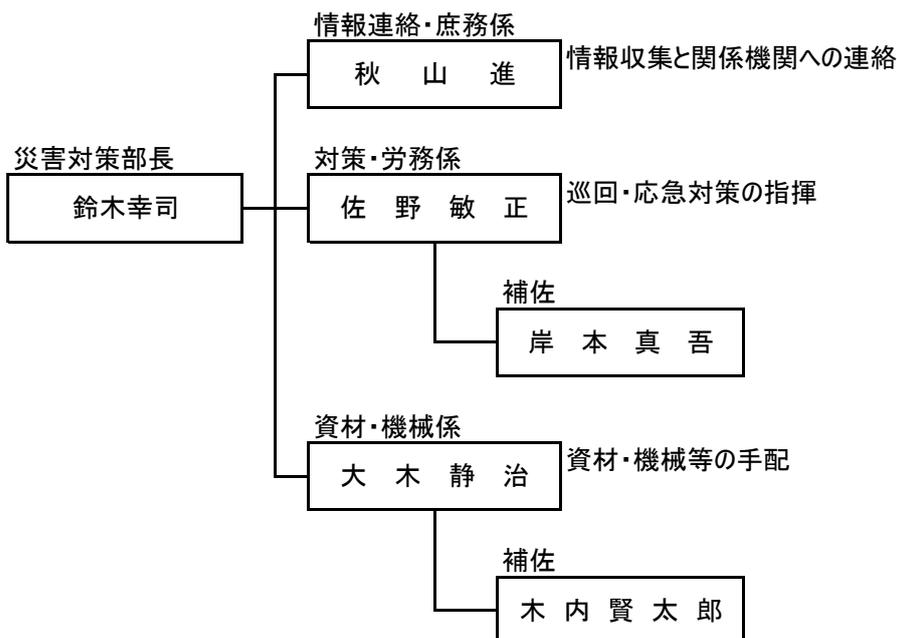
工事事故(火災・漏水など)発生時の対応



大雨、出水、強風、地震時の対応

大雨、出水、強風、地震などの異常気象で、災害発生のおそれのある場合は、下記の組織体制で必要に応じて現場内をパトロールし、警戒に当たる。

また、現場内において事故発生、またはその恐れのある場合も同様の組織で対応する。



そのほかの取組



和田建設(株)太陽光発電所
(当社事務所屋上)



平成26年7月4日
安全大会において、
下請け業者へ環境配慮事項
を周知



資材置き場を整理